

進化展「特別展」恐竜&地球の生きもの



そらんぽ四日市
ホームページ

四日市公害と環境未来館では、博物館開館30周年連携事業として特別展「～6億年のタイムトンネル～恐竜&地球の生きもの進化展」を、市立博物館4階特別展示室で7月15日(土)から9月3日(日)まで開催します。

この特別展では、太古の先カンブリア代から新生代までの化石や、実寸大の恐竜のレプリカ、動いて吠える恐竜ロボットを展示するほか、触れる化石や、シアターで、3Dメガネを付けて飛び出す恐竜の映像をご覧いただけるなど、五感をフルに使って楽しみながら恐竜の時代を学ぶことができます。

また、特別展の開催期間中には、関

連の講演会や環境学習講座も開催しています。いずれも小学生から参加できます。

この夏は「そらんぽ四日市」で、生きものの進化を学び、生命の尊さを感じながら生物多様性や気候変動など現在の環境について考えてみませんか。



動く!吠える!!
ティラノサウルスのロボット

☎ 四日市公害と環境未来館 (TEL) 354-8065 (FAX) 329-5729

四日市の中心市街地にお城!?

四日市の中心市街地には、桑名城や津城のような江戸時代に一帯を治めた大名の城はありませんが、少し時代をさかのぼると、本市の歴史上重要な役割を果たした2つの城がありました。

現在、鶉森神社となっている「浜田城」と、その西に位置する「赤堀城」です。城といっても天守閣がまだない15～16世紀の「中世城館」と呼ばれるもので、周囲を堀や土塁で囲み、内部に屋敷を構えた構造です。この2城と「羽津城」に、赤堀氏の三兄弟が居城したと言われています。

赤堀氏は、14世紀中頃に現在の群馬県から伊勢に来たとみられ、文献上、

四日市の歴史に登場するのは応永20(1413)年です。四日の「市」を開き、東海道を東に移したと伝えられ、四日市の発展に影響を与えました。

平成15年の道路改良工事に伴う赤堀城跡の発掘調査では、城の一部が見つかりました。また、「香り当て」に使うもんこうふだ聞香札という木札や将棋の駒、土人形なども出土しており、戦国の厳しい日常の中にも、文化的な生活があったことを垣間見ることができます。



松本街道脇にたたずむ赤堀城跡記念碑

☎ 文化課 (TEL) 354-8240 (FAX) 354-4873